

一人一人の力を引き出す

題材と授業をどうつくっていくか

I 研究の内容

【研究の柱】

- | |
|--|
| <p>① 子どもの課題や実態にあった題材と授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・一人ひとりの力を引き出すために、授業をどう作っていくか。・子どもの課題や実態をどのように捉え、どのような力を付けさせたいと考えて題材を設定していくか。 <p>② 子どもの表現活動によりそう支援のあり方</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもがどこで悩み、どのような工夫が生まれたのか。また、その題材を通して子どもにどのような変容が見られたのかをよみとる工夫を模索する。 <p>③ つながりと広がり、先を見通した実践の積み重ね</p> |
|--|

1. 研究の柱にそって小中合同で授業案の検討、実践、検証を行う。また一人一実践を行い、授業のあり方を考える。

(1) 小学校の実践から〈9月統一授業研の実践〉

『〇〇美じゅつ館、本日オープン!』

三枝 清美 (加納岩小4年)

様々なジャンルの美術作品の写真をカードにした「アートカード」を使った題材であった。たくさんのアートカードの中から各自が気に入ったものを選び、小集団で交流し合ったあと、小集団ごと美術館として作品を掲示するという内容である。研究会では、一人ひとりの鑑賞の力をいかに引き出し広げるか、課題提示の方法、子ども達のつまずきを予想した支援方法などについて検討し、研究を行った。作品の選び方など、ちょっとした違いで子どもたちの受け止め方や展開が変わることなど、改めて考え話し合うことができた。

授業では互いに交流し、友達が見つけた表現のよさに気づけるようにするなど、作品をよりよく見るよう工夫され、子ども達の作品の見方が広がっていく様子を見ることができた。また、授業者の声かけによって見方が深まっていく様子も見られた授業だった。アートカードを使った授業としては、低学年では作品の中から何かを見つけて深めていく授業、高学年ではテーマを持って作品を選ぶ授業など他の学年でもできる授業ではないか等も話し合われた。

(2) 中学校の実践から〈2月統一授業研の実践〉

『〇〇美術館、本日オープン!』

五味一也 (山梨北中2年)

加納岩小で2学期に行った授業研の内容を、中学生に合わせて行った授業で、子どもたちの見る力を引きだそうとしていた授業であった。研究会では、題材提示の方法やグループ活動の人数、生徒達が目的をもって活動できるように活動を明確にする工夫などについて話し合われた。中学生になると自分なりの見方がはっきりしてくる生

徒が多いと思われるため、授業はまず生徒の特徴や実態をしっかりと把握するところから始める必要がある、といった指導助言をいただいた。

2. 実技研修を実施し、授業へ還元する。

「モダンテクニックをつかっただけの表現方法と指導の実際」として、山梨南中美術室において実技研修を行った。中学校で使っている様々な材料を使いながら、新しい表現技法を体験した。偶然できたかたちから発想し実際に作品を作ってみるなど、子ども達の活動を予想しながら実技を行った。用具の扱い方や発想のポイントなど、実際に体験してみることで、授業時に予想される子どもをつまづきや必要な支援、知識など学ぶことができた。

3. 研究会会場を持ち回り、各校の学習環境や展示状況を参考にする。

実践作品や各教室の展示、図工室の材料や用具の準備の仕方など、いかに学習環境や鑑賞の場を作るか等を参考にした。

II 成果と課題

1. 成果として

- (1) 小中合同で研究することにより、図工から美術へのつながりという大きな観点を意識して研究ができた。それにより発達段階をふまえ、それぞれの段階でつけさせた力をより明確にすることができ、それぞれの発達段階を意識した題材や授業づくりにとりくむことができた。授業研や県教研へのとりくみはもちろん、各自が一実践を報告し、討議することにより、部会員全員が研究に関わることができ、授業づくりや支援のあり方などについて学び合い共通理解することができた。テーマに沿った研究の深まりと広がりが見られ、大変充実した研究会になった。
- (2) 会場を持ち回りにすることで各校の掲示や学習環境の工夫等を実際に見たり聞いたりすることができ、鑑賞学習や学習環境づくりの参考にすることができた。
- (3) 夏季学習会で実技研修を取り入れ、実際に作品づくりをやることで題材や支援について具体的に学習することができた。すぐ実践に生かせる内容であり、有意義なものとなった。

2. 課題として

- (1) 部会で研究した内容や教科の特性などについての考えが、図工美術の時間の削減や中学校の専科不在などのため、十分に理解され広まるまでに至っていない。各校に還元し広めていくための工夫や方法を考えていく必要がある。
- (2) 授業研究は学ぶべきことが多いため時間をかけて授業案の検討等をしていきたい。そのため、授業研究の時期、授業案の検討が十分できる研究計画、授業に向けての実技研修を組み入れるなどの研究の方法を考えていく必要がある。

(部長 谷澤 糧子)